

いのち
生命のにぎわい通信

第25号：発行 平成25年(2013年)1月

平成25年・2013年は、巳(み/へび)年です!!

十二支の中では、唯一の爬虫類が蛇(へび)です。その姿から嫌われがちなへびですが、成長の過程で脱皮することから、生命力や再生の象徴と見なされており、また、ネズミを捕食することから古い家屋の守り主としても、大事にされています。また、へびの脱皮殻を財布に入れるとお金が増える等の風習もあります。

県内では以下の7種のへび：**アオダイショウ**、**シマへび**、**ヒバカリ**、**ヤマカガシ**、**ジムグリ**、**シロマダラ**、**ニホンナムシ**が生息していますが、冬季は冬眠しています。蛇(へび)の名前がつく生きものは、植物では、へびイチゴ、へびノネゴザ、ジャノヒゲ、ジャゴケ、ナムシグサ、ウワバミソウなど。昆虫では、ジャノメチョウ、へびトンボなど。爬虫類では、ウミへびやニホンカナへびです。



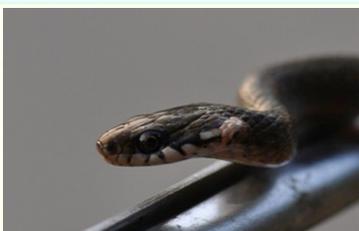
アオダイショウ(D) a0544

アオダイショウは、農地や人家周辺から山林まで広く生息する昼行性のへびであり、木登りが得意で、樹上に潜んでいる。大型な個体は1mを越える。小鳥の雛や卵、ネズミ、カエル等を食べる。幼蛇はハシゴ状の模様がある。



シマへび(C) a0285

シマへびは、4本の黒い縦縞があり、以前はよく見られたが、都市化とともに減少している。地表性のへびであり、ネズミ、トカゲ、へび等を食べるが、特にカエルを好む。



ヒバカリ(D) a0418

ヒバカリは、山地から平地まで生息しているが湿地に多い。ミミズや小魚、オタマジャクシなどを食べる。非常におとなしく、よほど乱暴に捕まえなければ、咬まれる事は無い。

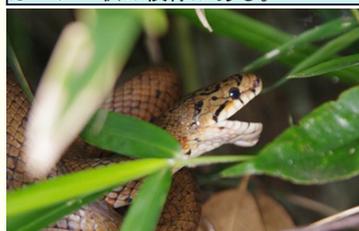


ヤマカガシ(D) a0261



ヤマカガシ(D)色素変異個体 a0034

ヤマカガシは、田んぼや林地沿いの川などの水辺に生息し、後頭部の黄色と体側面のオレンジと黒のまだら模様が鮮やかである。水辺にカエルを食べにくる。色素変異の個体では、白黒の個体や真っ黒な個体も希に見られる。奥の牙には溶血を起こす出血毒があるため、深く噛まれた場合は危険である。シマへび同様にカエルを好むため都市化で見られなくなっている。



ジムグリ(B) a0285

ジムグリは、雑木林など落ち葉の堆積した環境に生息して、ネズミの仔などを食べる。高温に弱く、夏になると姿を見せなくなる。おとなしい美しいへびで、特に幼蛇は赤みが強く斑紋も目立つ。



シロマダラ(B) a0034

シロマダラは、雑木林等に生息していて、夜行性で数が少なく、白黒のはっきりした縞模様から、毒へびと誤解されることもある。爬虫類食でトカゲやへびを食べる。



ニホンナムシ(B) a0034

ニホンナムシは、強い出血毒を持つ毒蛇で、やや太い体型で、体色は赤褐色に楕円形の斑紋がある。森林や田畑に生息し、ネズミやカエルを食べる。草刈り中に咬まれる事故が多い。卵胎生である。

(参考) 毒へびの特徴などは、「ジャパンスネークセンター(財)日本蛇族学術研究所」のウェブサイト詳しく書かれています。

<http://snake-center.com/library/venomous.php>

「a0***」は写真撮影者の調査団員番号

『調査フォーラム』 平成25年3月3日(日) 午後1時から 千葉県立中央博物館講堂 * 団員からの調査事例紹介を募集します。

『生物多様性シンポジウム』 平成25年1月19日(土) 午後1時から 佐倉市立中央公民館大ホール

『学校ビオトープフォーラム』 平成25年2月23日(土) 午後1時から 千葉県立中央博物館講堂

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください

「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>と「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/>

現地研修会で、いすみ環境と文化のさと（いすみ市万木）周辺を観察しました

調査団の現地研修会を、平成24年11月17日（土）に～晩秋の里山の生きものを知ろう～「いすみ環境と文化のさとと万木城周辺の生きもの」をテーマに実施しました。参加者は14名でした。当日、午前中は時々雨雲の通り過ぎる中、雨合羽を着て観察を行い、午後は雨が強くなったため、さとネイチャーセンターの図書室で、「ミヤコタナゴの生息を守るために」、「野生動物を知る、足跡の見分け等」の2題を映像を用いて、生物多様性センター職員が解説しました。質問や情報交換もできて、中身の濃い研修会となりました。

＜観察した生きもの 他＞カヤネズミの草で編んだ巣、アライグマの足跡と柱の爪痕、ニホンリスが食べたオニグルミの実、アカネズミが食べたオニグルミの実、ニホンノウサギが食べた大豆の葉、イノシシの掘り起こし跡。マヒワ、ウソ、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、マガモ、カイツブリ、オオバン、カルガモ。アケビの実、ガマズミの赤い実、ウメノキゴケ



草を丸く編んだカヤネズミの巣を発見しました。



オニグルミの食痕：アカネズミは穴をあける（右）、ニホンリスは殻を二つに割る。



午後は、ミヤコタナゴの保全と野生動物の足跡の見分けを学習し、意見交換をしました。



調査フォーラム（3月3日開催）において『調査団員限定の写真コンテスト』を行います。フォーラム参加者による審査投票で上位2作品を決め、当センター年報の表紙や展示ポスター等に掲載します。

これまでに行った写真コンテストの最優秀 / 優秀賞の作品

23年度



横取りは許さん！
（チョウゲンボウ） a0285



命の絆（カワセミ）
a0261

22年度



獲物はでかいぞ！
（ニホンイタチ） a0284

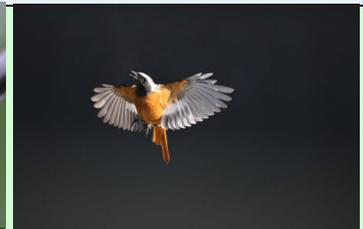


獲ったどおー！
（ミサゴ） a0285

21年度



ジムグリの幼蛇
a0195



ジョウビタキの飛翔
a0261

20年度



太古へ
（ニホンカナヘビ） a0155



はいポーズ
（ニホンアカガエル） a0114

これからの季節（冬から春）に観察できる生きもの：

調査対象は、**ウメ（開花）、ソメイヨシノ（開花）、トウキョウサンショウウオ**や**アカガエル**の産卵、**ウグイス**（初鳴き）

* 調査対象種以外の生きものの報告（猛禽類、カモ類など）には、判別するために必ず写真を添付願います。

* 希少生物（生息・生育数が減少している生物）や外来生物（**特定外来生物・要注意外来生物**）の情報も集めています。